

第2章 大学発特許実用化の事例紹介(24事例)

195大学を対象に第一次調査としてアンケート調査を行った結果、43大学より147事例が推薦されたが、その内容は「3.2.1 第一次調査結果のまとめ」として大学名、カテゴリー、発明の名称、関連製品、受賞歴などをリストアップしてある。カテゴリー的には「1.3 本研究成果のまとめ」に記したように、医療・医薬・バイオ系が52件で最も多く、次に材料・デバイス、電気・電子関係であった。個々の内容の詳細については、膨大な資料になるのでこの報告書には記載していない。

次に第一次調査にて推薦された147事例の資料を精査し、今後の大学知的財産活動の進め方に有益なヒントが得られそうな事例の選択作業に入った。147事例はどれも参考になるものであったが、第二次調査の時間的な制約もあり、20～25を目安に選択することにした。さらに第二次調査実施に先立ち、その調査内容・項目を検討・検証するために、選択された事例の中から6大学を選び、訪問・インタビューを行った。その結果を基に最終的に24事例を選択し第二次調査アンケートを行った結果が次ページ以降の「大学発特許実用化の事例紹介(24事例)」である。

選択に当たってはなるべく分野が偏らず、また新聞等での紹介記事の内容など、複数の観点から検討し、関係者に紹介記事の起稿を依頼した。また第一次調査結果以外に独自に調査して取り上げた事例も含まれている。

各事例は先ず1ページ目に

1. 研究およびその実用化についての概要、
 2. 研究における知的財産(特許)面での関心事・提言、
 3. 知的財産支援体制(発明の取り扱い、手続きなど)における関心事、提言、
 4. 研究の実用化において知的財産が果たした役割
 5. 大学発特許あるいはその実用化に際して留意すべき事項(教訓、メッセージ)
- について、表の形で記載した。

次にその特許の概要を知るために関連する特許の中から代表的な特許を選び、その公報抄録を掲載した。この特許公報抄録には図面が付いており特許の概要を知るには便利であるが、あくまで抄録なので、詳しい特許内容を知るには改めて特許公報を見る必要がある。

24事例は次ページのリストにある順に記載しており、同じ大学で複数の事例紹介がある場合には、大学名の後に、 のように番号を付けて区別している。